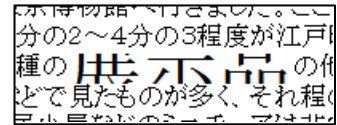


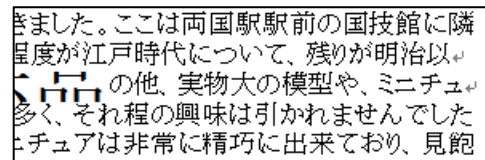
第4章 オフショーン問題 解説

まず始めに、「展示品」の文字位置を他の文字とほぼ中央で揃うようにする。文字位置の調整は直前の練習問題で行ったように、「展示品」を範囲指定した状態でフォントのダイアログボックスを開き、詳細設定のタブを指定する。位置(P)のボックスは下げる、間隔(Y)のボックスは3ptとなっている(これが直前の練習問題の解答)。このまま、間隔(Y)のボックスを7pt程度にしてやると、「展示品」と他の文字がほぼ中央で揃う。このボックスは、直接数値を入力することも可能であるが、それは0.5pt単位となる(例えば7.2と設定しても、もう一度ダイアログボックスを開き、確認すると7ptもしくは7.5ptとなってしまふ)。従ってここは大体で良い。

続いて行間の調整である。これも直前の練習問題で行ったように、行間を最小値としても、一定間隔より狭くはならない。行間を固定値とすれば、より狭い間隔となるが、例えば固定値で間隔を12ptとすると、他の部分は良いが、文字を大きくした「展示品」の部分は文字が隠れてしまふ(右図)。一方、「展示品」の部分がちょうど表示されるように行間を調整すると、今後はその他の部分の行間が広がってしまふ。これは、例えば「展示品」の部分を範囲指定して操作を行っても、全く改善されない。行間の設定は段落単位で行われるので、範囲指定をしようが、しまいが、段落全体が同じ設定となるためである。



それでは「展示品」が含まれる行の前後だけ行間を、それ以外の行間と違えることは不可能であろうか。一つの段落内で実現しようとするれば不可能ということになるが、段落を変えてしまえば可能となる。具体的には「展示品」の行の行頭及び行末の2ヶ所で段落を改める(それぞれの位置にカーソルを移動し、Enter。右図)。



このように段落を分けた状態で、それぞれの行間設定を行えばよい。「展示品」より上の行については、練習問題で行ったように10.6pt程度とする(表示倍率は上げておく)。

「展示品」のある行(この行1つで1つの段落となっている)の場合は、試行錯誤の結果、行間を固定値で20.3ptとすると、「展示品」という文字の上方部分が欠けずに表示された。ただし、これでは「展示品」の下方部分が欠けてしまふ。これを正しく表示させるために次の行(段落)で調整しても良いが、そうなると、次の行も1つの段落としなければならない。この場合は次のような方法もある。それは「展示品」のある行(段落)について、段落のダイアログボックス、行間設定の左側にある段落後(F)のボックス(段落直後の間隔を設定する部分)を0.29行に設定すると、「展示品」下部も欠けずに表示される。こちらの方法を取れば、「展示品」の下の段落の行間は、上の段落と同様、固定値の10.6ptにしておけばよい。

これで行間の問題はクリアされたが、まだ問題が残っている。それは、右上図(下の段落を分けたことを示す図)でも分かるように、「展示品」の行とその1行上の行の行末が、他の行より凹んでしまっている。これらの段落の配置は両端揃えとなっている。両端揃えという配置は、文字間の空白を調整し、行の右側を揃えるものであるが、段落の最後の行は左詰とするものである(何故、段落の最後の行を

左詰にするのかは第 4 章の本文、段落の配置の節で説明したので、必要があれば見ておいてもらいたい。この部分は Word の段落としては、確かに段落の最後の行となってしまうが、見た目としては段落の途中の行の扱いになっていてもらいたい。そのためには、この 2 つの段落の配置を均等割り付けにしておけばよい。これを行えば、右側も揃った形となり(下図、これは印刷を行う際に表示されるイメージをコピーしたものなので、段落記号等は表示されていない)、見た目は 1 つの段落となっている。なお、段落の配置を均等割り付けとする際には、本文でも述べたように、範囲指定を行った状態で均等割り付けの設定を行うと、段落に対する設定ではなく、範囲指定した文字列部分に対する均等割り付けの設定となってしまう、上手くいかない場合がある。この点には注意してもらいたい。もっとも、範囲指定部分が複数の段落にまたがる場合は、段落に対する設定となるので、そのような範囲指定の場合は構わない(この辺はちょっと試しておいてもらいたい)。

る江戸・東京博物館へ行きました。ここは両国駅前の国技館に隣接し、約 2/3～3/4 程度が江戸時代について、残りが明治以降の東京に重なる**展示品**の他、実物大の模型や、ミニチュアがありまふどで見たものも多く、それ程の興味は引かれませんでした。江戸に居小屋などのミニチュアは非常に精巧に出来ており、見飽きないも

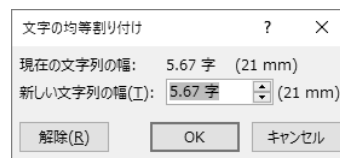
おまけ 文字列に対する均等割り付け

ヘッダー領域をダブルクリックし、ヘッダーの編集状態にする。

という行(段落)に対し(段落に対する)均等割り付けを行うと、

ヘッダー領域をダブルクリックし、ヘッダーの編集状態にする。

というように左右にいっぱい広がった状態になる。一方、例えば「ダブルクリック」という部分を範囲指定し、均等割り付けを行おうとすると、右に示すダイアログボックスが表示され、新しい文字列の幅(T): のボックスの値を15字に変更し、OKをクリックすると、



ヘッダー領域をダブルクリックし、ヘッダーの編集状態にする。

となり、「ダブルクリック」という文字列部分だけが15字分の領域に均等に割り付けられ、その他の文字列の間隔は変わっていない。これが文字列に対する均等割り付けである。

段落に対する均等割り付けか、文字列に対するものかは、範囲指定が行われているかどうかで判断される。ただし、範囲指定が複数段落に渡る場合は段落に対するものとなる。この2つの均等割り付けは区別してもらいたい。